

「エペソにある教会」

黙2：1～7

1. はじめに

(1) 黙示録の3区分

①黙1：19は、黙示録を3区分している。

**Rev 1:19** **そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。**

②3区分の内容

\* 「あなたの見た事」(1章)

\* 「今ある事」(2～3章)

\* 「この後に起こる事」(4～22章)

③今回の箇所から、「今ある事」が始まる。

\* 内容は、アジアにある7つの教会への手紙である。

\* キリストご自身からの手紙であるが、無視されていることが多い。

2. アウトライン

(1) 7つの教会の神学的意味

(2) エペソにある教会 (1～7節)

①宛先

②賞賛

③叱責

④奨励

⑤約束

3. 結論：

(1) 7つの手紙を無視することの損失

(2) エペソにある教会から学ぶ教訓

(3) いのちの木

7つの教会の神学的意味と、エペソにある教会について学ぶ

I. 7つの教会の神学的意味

1. 7つの教会が選ばれている理由

(1) もっと有名な教会もあるが、選ばれていない。

①コロサイ教会、ローマ教会、アンテオケ教会、エルサレム教会

(2) 7つの教会には、地理的なつながりがある。

- ①エペソから始まり、②そこから北に行くとスミルナ、③さらに北に行くとペルガモ、④そこから東に行くとテアテラ、⑤そこから南に行くとサルデス、⑥そこから東に行くとフィラデルフィア、⑦そこから南東に行くとラオデキヤ。

(3) 教会の数は7つに限定されている。

- ①それゆえ、7は象徴的数字であろう。
- ②聖書では7は完全数である。

## 2. 3つの神学的意味

(1) 7つの教会とは、当時小アジアに存在していた実際の地域教会である。

- ①これは字義通りの解釈の結果出てくる結論である。

(2) 7つの教会とは、教会の7つの型である。

- ①教会史のどの時代でも、この7つの型は存在していた。
- ②これは、7つの教会への手紙を学んだ結果出てくる推論である。
- ③これらの手紙の内容は、今の教会だけでなく、各個人にも適用される。

(3) 7つの教会とは、それぞれの時代の教会の特徴を預言的に表したものである。

- ①ある時代には、ある教会の型が顕著に表れる。
- ②これも、学びの結果出てくる推論である。
- ③これは、未来的アプローチと調和する解釈法である。

## 3. 7つの教会と教会史における7つの時代

(1) エペソにある教会は、「使徒時代の教会」の型である（好ましい）。

- ①紀元30年～100年頃までの教会
- ②正統的な教理はあるが、最初の愛から離れた教会

(2) スミルナにある教会は、「迫害時代の教会」の型である（没落）。

- ①1世紀～4世紀の教会
- ②迫害に耐える教会

(3) ペルガモにある教会は、「国家教会時代の教会」の型である（結婚した）。

- ①4世紀～5世紀の教会
- ②妥協する教会、寛容すぎる教会

- (4) テアテラにある教会は、「暗黒時代の教会」の型である（継続した犠牲）。
- ①6世紀～15世紀の教会
  - ②西方ではローマ・カトリック教会が、東方ではギリシア正教会が支配した。
  - ③忍耐深いが、誤った教理を許容する教会
- (5) サルデスにある教会は、「宗教改革時代の教会」の型である（逃れる者）。
- ①16世紀～17世紀の教会
  - ②宗教改革の光は、短時間のうちに消え始めた。
  - ③死にかけている教会
- (6) フィラデルフィアにある教会は、「大宣教時代の教会」の型である（兄弟愛）。
- ①18世紀～19世紀の教会
  - ②リバイバルが起こり、宣教師たちの活躍があった。
  - ③忠実な教会
- (7) ラオデキヤにある教会は、背教時代の教会の型である（人々が支配する）。
- ①終わりの時代の教会、自由主義神学の教会、エキュメニカル運動の教会
  - ②生ぬるく、役に立たない教会

## II. エペソにある教会（1～7節）

### 1. 宛先（1節）

**Rev 2:1 エペソにある教会の御使いに書き送れ。／『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。』**

- (1) 当時、エペソは小アジア有数の都市であった。
- ①港町として栄えていた。
  - ②アルテミスの神殿があった。古代世界の七不思議のひとつとされた。
    - \*ローマ神話の女神 ディアーナはギリシア語でアルテミスである。
  - ③パウロは第3回伝道旅行で、ここに3年間留まり、効果的な弟子訓練を行った。
    - \*影響が大きくなったので、銀細工職人たちが暴動を起こすほどであった。
    - \*使 19章参照
  - ④エペソにある教会への手紙は、パウロの奉仕から40年以上経って書かれた。
- (2) 教会の御使いとは、教会を守る天使のことである。

①これを牧師と解釈する人もいる。

(3) キリストの描写

①「右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方」

\*7つの星は、7人の天使。

\*7つの燭台は、7つの教会。

②教会に対するキリストの守りと主権を示している。

③キリストは、教会のことをすべて知っておられる。

2. 賞賛 (2~3節)

Rev 2:2 「わたしは、あなたの行いとあなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。

Rev 2:3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。

(1) この教会は、40年以上にわたり教理的な純粋性を保ったので、ほめられている。

①主は、欠点を指摘する場合でも、まず長所をほめてくださる。

②主は、かれらの行い、労苦、忍耐をご存じである。

(2) 彼らは、悪い者たちを追放した。

①「悪い者たち」とは、偶像礼拝の影響を受けた者であろう。

②さらに、道徳的に問題のある行動をする者でもであろう。

(3) エペソ教会の信徒たちは、偽教師たちの誤った教えを見抜いて拒否した。

①偽教師たちは、7つの教会の最初の4つに存在していた。

②パウロは、偽教師が出ることを予告していた。

\*使 20:28~31、2 コリ 11:13

③エペソの信徒たちは、使徒たちの教えに照らして偽りの教えを見抜いた。

3. 叱責 (4節)

Rev 2:4 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。

(1) エペ 1:15~16

Eph 1:15 こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いて、

Eph 1:16 あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなたがたのことを覚えて祈っています。

①パウロは、この教会の信者のことを聞いて、絶えず神に感謝している。

②彼らは、信仰と愛に満ちていた。

(2) それから40年以上経って、彼らは初めの愛から離れてしまった。

①信者のほとんどが、第2世代のクリスチャンである。

②その教会では、正統的な教理が教えられ、奉仕も熱心に行われている。

③しかし、キリストに対する愛が欠如している。

④これが、使徒たちが死んだ直後の時代の教会の姿である。

#### 4. 奨励 (5～6節)

Rev 2:5 **それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。**

Rev 2:6 **しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派の人々の行いを憎んでいる。わたしもそれを憎んでいる。**

(1) 悔い改めの勧め

①ここは、個人への悔い改めの勧めになっている。

②どこから落ちたかを思い出し、初めの行いをする。

③悔い改めないなら、教会は取り除かれる。

④心の変化と行動の変化は合致するものである。

(2) その後のエペソ教会

①教会は存続し、後(431年)に、教会公会議の舞台になった。

\*エペソ会議(キリスト論を議論した)

②紀元5世紀以降、教会も町も衰退した。

③紀元14世紀以降、その近辺は荒廃したままになっている。

(3) ほめことばも出てくる。

①ニコライ派の人々の行いを憎んだ。

②キリストも彼らを憎んでおられる。

(4) ニコライ派とは誰かについて、いろいろな意見がある。

①ニコラスという指導者に従っているセクト

②ニコライ派の意味は、「人々の支配者」。

\*民から霊的自由を奪う聖職者の階級制の先駆けか。

③あるいは、キリスト者の自由を乱用し、不道德な行為を容認するセクトか。

## 5. 約束 (7 節)

Rev 2:7 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。』

### (1) 勝利を得る者

- ①勝利を得る者とはイエス・キリストを神の子と信じる者である。
- ②つまり、真のクリスチャンのことである。
- ③真の信仰があれば、誘惑や試練に勝利することができる。

### (2) 与えられている約束

- ①「神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう」
- ②これは、天において与えられる永遠のいのちである。

## 結論：

### 1. 7つの手紙を無視することの損失

- (1) 現代のクリスチャンは、パウロの手紙やペテロの手紙ほどには、7つの手紙について学ばない。
- (2) その結果、教会は自らの霊的状态を点検するための基準を失った。
- (3) 教会の歴史的展開は、上昇傾向ではなく、下降傾向に向かう。
  - ①最後がラオデキヤにある教会である。
  - ②これは、背教時代の教会の型である。
  - ③使徒たちの教えからの逸脱。自由主義神学やエキュメニカル運動。
  - ④倫理基準の後退。同姓婚の容認。
- (4) ラオデキヤにある教会は、携挙の時に地上に残される教会の型である。
  - ①地上に残された背教の教会が、大患難時代前半の大バビロンにつながっていく。
- (5) クリスチャンの努力によって、地上に神の国を来たらせようという教えがあるが、それは非聖書的である。
  - ①私たちに与えられている使命は、大宣教命令である。
  - ②平和の追求は、平安な生活と伝道の秩序のためである。

### 2. エペソにある教会から学ぶ教訓

- (1) 教理的正確性と熱心な奉仕だけでは、不十分である。
- (2) 奉仕の動機は、そうすることが正しいということだけでは不十分である。
  - ①キリストに対する愛があるかどうか重要である。
  - ②神は、私たちの手足だけでなく、心も求めておられる。

### 3. いのちの木

#### (1) 創3:22

Gen 3:22 神である【主】は仰せられた。「見よ。人はわれわれのひとりようになり、善悪を知るようになった。今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」

#### (2) 黙22:2

Rev 22:2 都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。

(3) エデンの園に植わっていたいのちの木は、新しいエルサレムに生えている。

①この木から食べる者は、永遠に生きる。

#### (4) 黙2:7

Rev 2:7 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。』

(5) この約束は、特定の人だけに与えられているのではない。

①勝利を得る者とは、イエス・キリストを信じる者である。

1Jn 5:5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

②普通のクリスチャンが、勝利を得る者である。

(6) 7つの教会に与えられている約束は、すべて私たちに与えられている。